【主な沿革】

明治　６年	茂泉小学校として創立
明治２０年	茂呂尋常小学校となる
昭和２２年	伊勢崎市立茂呂小学校となる
昭和４１年	「教民要旨の碑」が市重要文化財に指定
昭和４８年	創立１００周年記念式典挙行
昭和５８年	現校舎完成
昭和６０年	体育館完成
昭和６１年	県・市より体力つくり実践推進校に指定
昭和６３年	プール、固定遊具施設完成
平成　４年	市より道徳研究指定を受ける
平成１２年	文科省の道徳教育体験活動推進事業
平成１８年	プレハブ校舎（３教室）増築
平成２３年	北新校舎（５教室）増築
平成２４年	普通教室・特別教室エアコン設置
平成２６年	県より「確かな学力」研究推進校に指定
平成２８年	昇降口天井耐震工事完了
平成２９年	エレベーター設置工事完了
令和　元年	校庭南側フェンス設置
令和　３年	タブレット･大型電子黒板導入
令和　５年	創立１５０周年記念式典挙行
令和　６年	体育館エアコン設置

【校　時　表】

8:20	～	8:40	朝の活動
8:40	～	9:25	第１校時
9:30	～	10:15	第２校時
10:15	～	10:35	休み時間
10:35	～	11:20	第３校時
11:25	～	12:10	第４校時
12:10	～	12:55	給　食
12:55	～	13:10	清掃活動
13:10	～	13:35	昼休み
13:35	～	13:50	パワーアップ
13:55	～	14:40	第５校時
14:45	～	15:30	第６校時
15:30	～	15:40	帰りの会
15:00		５校時の場合 児童完全下校	
15:50		６校時の場合 児童完全下校	

※月曜日　清掃活動・パワーアップなし
※火、水、木曜日　上記の校時表通り
※金曜日　パワーアップなし

【組　織】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	きりのこ	たんぽぽ
1組								
2組								
3組								
4組								
担任外	校　長		教　頭		教　務		研修主任	
	音楽専科		理科専科		理科専科		英語専科	
	初任研指導		学校経営アドバイザー		初任研後補充		養護教諭	
	養護教諭		学校事務		学校事務		イングリッシュサポーター	
	ALT		学習生活相談員		スクールカウンセラー		マイタウンティーチャー	
	図書館事務		教育支援員		教育支援員		教育支援員	
	教育支援員		校務支援員		労務技士		労務技士	
	日本語指導助手							

【 行事予定 】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
始業式 入学式 １年生を迎える会	二者面談 避難訓練 交通安全教室	校外学習 (3年)	終業式 臨海学校 （5年）		始業式 きりたん旅行	校外学習 （1・2年） チャレンジスクール （4年） 運動会 就学時健診 避難訓練	校外学習 (5年･きりたん) 修学旅行 （6年） 持久走大会 二者面談	学校保健委員会 避難訓練 終業式	始業式 入学説明会 避難訓練	学習参観 懇談会 ６年生を送る会	機織り体験（4年） 卒業式 修了式

【 児童数 】　男子３５９人　女子３８９人　／　合計７４８人　（令和８年５月１日現在）

令和８年度

学 校 要 覧

茂 呂 小 学 校 校 歌　作詞　福 原 太 一　作曲　坪 内 千 鶴

1 朝の光をあびながら
小鳥のように元気よく
明るいえがお見せあって
いま茂呂小の学びやで
おはよう
きょうもがんばろう

2 花とみどりにかこまれて
遜親堂(そんしんどう)のむかしから
学びの血しお受けついだ
この茂呂小のともだちと
心とからだ
きたえよう

3 空の青さのはてしなく
働くとうさんかあさんに
まけずにみんな勉強し
ああ茂呂小の伝統に
かがやくあすを
きずこうよ

伊勢崎市立茂呂小学校

〒３７２-００３４　伊勢崎市茂呂町２－２１６９－１
TEL　０２７０－２５－４４４１　Fax ０２７０-２５-３９１７
URL http://www.isesaki-school.ed.jp/morosyo/
E-Mail　morosyo@isesaki-school.ed.jp
標高　55.103m　東経　139°12'38"　北緯　36°17'59"

令和８年度　学校教育方針

伊勢崎市立茂呂小学校

◎教育目標

考える子　思いやりのある子　たくましい子

〇目指す児童像

（知）自ら学び考え
（徳）互いを認め合い助け合う思いやりの心をもち
（体）目標に向かって挑戦できる茂呂小の子

◇目指す学校像

一人一人が目標に向かって主体的に挑戦し、躍動する学校

◇教育課題・教育計画

・確かな学力の向上　① 考え表現する力の育成
　② 家庭学習づくり
・共　　生　① 豊かな心と社会性の育成
　② 自己肯定感・自己有用感の向上
・自信と向上心　① 主体性の育成と自己実現
　② 健康づくりと安全力の向上

※努力点

ア　児童が充実感とともに自己肯定感、自己有用感を高められるよう、一人一人が様々な役割を担う機会を通し、自信や意欲等、心を育てる教育活動を展開する。
イ　「なぜ？」「なるほど」「次はこうしたい」を大切にし、児童が主体的に考えを深め、表現できるよう、「学び合い」を重視した授業改善を図る。
ウ　温かさを基盤とする優しさと厳しさにより、児童が規律ある生活の大切さに気付き、責任と自律ある行動や、望ましい生き方を追求する態度を育てる。
エ　学校と家庭との連携を深め、教育相談を組織的に展開し、保護者とともに児童の健やかな成長を目指し、いじめや不登校などを未然に防止する。

学習と特別活動で「心」を育てる　**「自分たちの学校は自分たちでよりよくする」**意識と行動

考える子　**「確かな学力の向上」のために**

自分の力で考える、みんなの力で考える

① 考え表現する力の育成

〇基礎基本の確実な習得
・授業中の学習規律の徹底、ノート指導の徹底
・一単位時間における基本的な「学び方」（学習の流れ）の習得
（めあて→自分で考える→みんなで考える→まとめ→振り返り）
※子どもの言葉を基にした「めあて」と「振り返り」
〇「主体的・対話的で深い学び」につながる「学び合い」の充実
・「なぜ？」「なるほど」「もっとやってみたい」「次はこうしたい」を引き出す学びの充実
〇生活科・総合的な学習の時間における探究を意識した学びの実践
〇ICT（一人１台端末）の効果的な活用による授業づくり
〇校内研修や学年・教科部会を核とした教職員全体の指導力向上
〇ＮＲＴや全国学力学習状況調査結果等の分析による授業の改善充実

② 家庭学習づくり

〇学習内容と学習習慣の定着を目指す、家庭学習（「宿題」）の工夫
〇自分で考えた学習計画に基づく自主学習の推進
・「チャレンジノート」の取組、「チャレンジノート」紹介コーナー
〇読書活動の推進、新聞に慣れ親しむ展示コーナーの工夫

思いやりのある子　**「共生」のために**

「ありがとう」が言える人になろう

① 豊かな心と社会性の育成

〇互いに認め合い、一人一人のよさが輝く学級・学年経営の充実
・児童一人一人が活躍できる場づくりと称賛
〇特別活動を核とした、温かで互いに認め合い、高め合える集団づくり
・意思決定や合意形成の機能を生かした、よりよい集団づくり
・児童の主体性を育む児童会活動の活性化
・いじめ・不登校の未然防止
〇道徳科を要とした教育活動全体を通した道徳教育
・道徳科との関連を踏まえた、各教科・総合的な学習の時間・特別活動の意図的・計画的な取組

② 自己肯定感・自己有用感の向上

〇「ほめる」「認める」「励ます」ポジティブな行動支援
一人一人が活躍できる場や機会の意図的・計画的な設定
〇集団の中で役割を果たし、仲間の役に立つ喜びの獲得
・学級や学年、委員会、たてわり等の集団で役割を果たし、一人一人が集団（仲間）から必要とされている実感の獲得
・ステ活など、小さなボランティア活動の推奨
〇思いを大切にした感動ある諸行事の効果的な展開
・目的を明確にして児童会活動と連動し、児童が主体的に取り組み、魅力ある活動となるような学校行事等の推進

たくましい子　**「自信と向上心」のために**

自分からチャレンジ、みんなでチャレンジ

① 主体性の育成と自己実現

〇エージェンシーを発揮した、学級会、係・当番活動、委員会活動、クラブ活動、たてわり活動の充実
・「自分たちの学校は自分たちでよりよくする」という意識と姿勢の育成
・「自分(たち)はやればできる」という自信の獲得
・「次は（さらに）こうしたい」という意欲の向上
〇夢や希望、思い、生き方を育むキャリア教育の推進
・キャリア教育全体計画に基づいた実践
・キャリアパスポート活用による定期的な振り返り
〇本物の「人・もの・こと」にふれる自然・社会・文化体験活動の充実

② 健康づくりと安全力の向上

〇「体力向上プラン」を基にした、運動することの楽しさや仲間とかかわる喜びの獲得
・茂呂小オリンピック、外で遊ぼうデー等の実施
〇健康課題改善に向けた「学校保健委員会」等の取組
〇交通安全、防災(自然災害)等、危機回避能力の育成
〇インターネットやＳＮＳ等の正しい使い方等の情報モラルの向上

望ましい行動（よりよい行動）を育て、増やすポジティブな行動支援の組織的推進

※集団や個の望ましい行動に着目し、その行動を引き出す具体的な支援と行動を定着させる「ほめる」「認める」「励ます」といったポジティブな支援により、望ましい行動を増やす取り組みを全校体制で推進する。

〇すべての児童への発達支持的生徒指導としての行動支援
・特別活動（学校全体・学級）、学び合いによる授業
〇個別支援を必要とする児童への行動支援
・各学級、P-room、P-space、ほっとる～む、通級指導教室
〇特別支援学級の児童への行動支援
・きりのこ学級、たんぽぽ学級
〇多面的児童理解
教育支援部会や学年会等の有機的な関連による多面的児童理解に基づく教職員の共通実践

地域とともにある学校づくりの展開

〇学校評価、学校評議員会の効果的活用
〇学校支援センターの充実
・読み聞かせボランティアや大学生等ボランティアの積極的な活用
・家庭科学習や龍頭神舞、書写指導等への地域人材やゲストティーチャーの活用
〇効果的な情報発信
・学校だより、学年（学級）だより等による教育活動や子供たちの活躍の見える化
・一中地区共同事務室の情報発信「事務だより」の発行
〇ふるさと学習の実践を通して、地域を知り、地域への誇りの高陽
〇学府（一中地区連携推進協議会）による連携事業の推進

※子供たちと向き合う時間を確保し、より豊かな学びを届けるための「働きやすい環境の整備」（業務改善）

〇「業務量管理・健康確保措置実施計画」に基づいた、業務の在り方の不断の検討　〇ＩＣＴの効果的活用（Ｃ４ｔｈ等の活用、ペーパーレス化の一層の推進等）　〇整理整頓された、清潔で気持ちの良い職場環境づくり（５Ｓ）